

第 5 回大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会議事概要

開催日時	令和 4 年 3 月 23 日（水）10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所	大阪狭山市役所 3F 第一会議室
出席者	上甫木委員、久委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、中嶋委員、疋田委員、松本委員、宮下委員、秋元委員、芝辻委員、大塚委員、藤原委員、三崎委員
欠席者	1 名
事務局	古川市長、堀井副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、都市整備部長、市民生活部長、教育部長、政策推進部理事、政策推進部企画 G 課長、企画 G 参事、任期付職員、会計年度職員
傍聴者	0 名
議題(案件)	1. 開会 2. 市長挨拶 3. 資料説明 (1) 狭山ニュータウン地区再生推進計画のパブリックコメント結果 (2) 狭山ニュータウン地区再生推進計画（本編） (3) 狭山ニュータウン地区再生推進計画（概要版） (4) 狭山ニュータウン地区再生に向けた令和 4 年度の主な取組み案 (5) 大阪スマートシニアライフ実証事業について (6) 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則の改正 4. 意見交換 5. 本日のまとめ 6. 事務局からの連絡 (1) 新年度（令和 4 年度）の連絡先・日程調整について (2) その他 7. 閉会
資料	資料 1 狭山ニュータウン地区再生推進計画のパブコメ結果 資料 2 狭山ニュータウン地区再生推進計画（本編） 資料 3 狭山ニュータウン地区再生推進計画（概要版） 資料 4 狭山ニュータウン地区再生に向けた令和 4 年度の主な取組み案 資料 5 大阪スマートシニアライフ実証事業について 資料 6 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則の改正 参考 1 第 4 回連絡協議会の議事概要 参考 2 狭山ニュータウン魅力発見フェスタができるまで

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	1. 開会 ・第5回狭山ニュータウン地区再生連絡協議会を開会する。 ・本日の出席者数は全委員 15 名中 14 名であり、当協議会の成立を報告申し上げる。 ・ここで市長の古川からご挨拶申し上げます。
市 長	2 古川市長挨拶 ・本日は早朝より、また大変ご多忙の中、第5回狭山ニュータウン地区再生連絡協議会にご参集いただき感謝申し上げます。 ・今年の1月には市民に対してパブリックコメントを行い、市民の皆さまからのご意見を頂戴し、先日、この狭山ニュータウン地区再生推進計画を無事策定するという運びとなった。皆さま方にご協力を賜ったこと、この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。 ・昨年の6月の第1回目の会議に本市には色々な主体となる市民、団体が活動されており、主体となる方々をつなげる、つながる、いわゆる連携をするということを重きにご議論をお願いしたいとお伝えした。策定いただいた本計画は、どの取組項目も連携を意識された内容になっており、狭山ニュータウン地区再生に向けて大きく第一歩のスタートを切れると改めて認識させていただいた。 ・昨年、狭山ニュータウン地区再生に向けて、キックオフイベントとして、東大池公園でさやマルシェ、そして狭山ニュータウン地区内の公園を利用して公園ウォークラリーを開催いただいた。多くの市民をはじめ関係者の皆さまがご協力、ご参加いただいて、無事に成功裏に終えられたことを心から感謝申し上げます。 ・近畿大学も令和7年度移転に向けて動きだし始めようとしている。移転後の跡地をどうしていくかという課題もあり、また府営住宅も集約建て替えの検討に入るとのことです。かなり大きな土地が出てくるため、この近畿大学病院移転後の跡地と府営住宅の活用用地をどうしていくかも狭山ニュータウン地区再生の非常に大きな要素となると認識している。 ・そのような状況で、今年、狭山ニュータウン地区にどのようなニーズがあるのか、土地利用需要調査を行う予定である。これからのニュータウン再生に向けた取組みの一助にしていきたいと考えている。 ・今後とも当地区で実施される1つ1つの取組みが狭山ニュータウン地区の再生につながることで、それがひいては大阪狭山市の他の地域にも影響が与えられるよう、大阪狭山市としてもしっかりと取組みを進めていく。どうぞよろしくお願いする。

事務局	3 資料説明 ・資料説明
会 長	4 意見交換 ・ただ今、説明があったようにパブリックコメントを入れて、資料2の狭山ニュータウン地区再生推進計画、資料3の概要版として示した計画ができあがった。この場を借り、あらためて委員の皆さまに熱心に討議いただいたことに関して感謝申し上げたい。 ・計画はできたが、先ほど市長の話があったように、これからまさに行政、住民、事業者がしっかりと連携しながら具体的に取組みを進めていくということが非常に重要である。それに関しては、資料4に来年度の主なプロジェクトとして提案がある。これに関して委員の皆さまからご意見をお伺いできればと思う。
副会長	・資料4の「市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進」として、「西山台第1公園ほかの老朽遊具等更新」がある。ここにワークショップ等で様々な人に参画いただいて、計画を作り、一緒にこの更新をしていくという仕組みが欲しいと思う。 ・予算が決まっているため、どこまで可能かは分からないが、遊具を更新するだけではなくて、公園の配置もこのデザインで良いのかまで考えてリニューアルできると自分たちの思いのこもった公園デザインができあがる。公園の部署と考えていただき、これからも意欲のある使い方ができるようなスタートを切って欲しいと期待している。
会 長	・ご意見感謝する。パブリックコメントでも13番目の意見に定期的な公園活用をお願いしたいというものがある。副会長が話したように、公園が1つの大きな種地になる事例として、非常に大事だと思う。府営住宅も当然オープンスペースが中に含まれており、それも有効に活用していくことが必要だと思う。1つの先進事例として、公園改修を捉えてはどうか。 ・考え方としては、公園整備よりも公園活用ということで、単に緑を増やすだけではなく、いかに多目的に活用できるかが重要である。当然、色々な企業や事業を起こすというチャンスの場合もあり、高齢者や子供の世代間交流もあれば、福祉の場として活用することもでき、公園を種地として活用するという意義は非常に大きいと思われる。私も副会長の意見に賛成であり、よろしくをお願いしたい。 ・また、来年度の箇所、昨年活況だったマルシェやウォークラリーは入っていないのか。別立てで行うのか。
事務局	・資料の4のシンボルプロジェクト「市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進」の（※推）の部分である。個別にマルシェやウォークラリー

	一の記載はないが、「公園活用イベントの実施」で検討したい。
委 員	・資料5のスマートシニア実証事業の概要でお聞きしたい。3つの地域で1,000名を対象としており、大阪狭山市は300人が対象で、結果的には現在132名の方が説明会に来て、タブレットを借りて実験に入られているという報告であった。300台割り当てられて130台程度しか貸せないのは残念だと思った。 ・50歳代以上の住民ということで募集したとのことだが、実際の年齢構成、50代、60代、70代、80代、90代なのか、男女比、1人暮らし、2世代、3世代世帯なのかについて、また、半年間実施する中で色々な意見や使い勝手については、年代的にも色々と異なると思うため、これらに関してもう少し資料的に提示いただければ分かると思った。今後、補足して欲しいと思う。
事務局	・おっしゃるとおりである。今後9月頃に予定する当協議会の中で、大阪府から資料を色々取り寄せて分析し、使用割合等々も含めて報告したい。現在132名という速報値の報告にとどまっており、年齢構成、男女比等々について資料を取り寄せていないため、使用状況も含めて一定報告したい。
会 長	・年齢や利用実態が分かると進め方も見えてくると思うため、大阪府との連携をお願いしたい。また、大阪狭山市だけではなく、他市も併せたデータも必要であるため、こちらをお願いしたい。
副会長	・こういった話題では年齢が出てくるが、年齢が問題ではないと思う。私も60代だが、スマホを使っている方である。年齢ではなく、どういう属性の人が乗ってくるのかを詳細に見て欲しい。 ・また、システム全体の評価と各アプリの評価は違ったレベルではあるが、実証実験であるため、これらの評価もより詳細に行うことで、どういう人にどういう使い勝手を供与すると使用率が上がるのかを評価して欲しいと思う。
会 長	・ご意見感謝する。12月頃に結果が出るのか。
事務局	・スマートシニアライフ事業は、民間企業23社と大阪府が作る推進協議会が実施している。現時点で堺市、河内長野市の具体的な数字は聞けていない。府と事業体で共有される中で知ることができると思う。 ・台数が伸びなかった点やアプリ改善等の問題点をご指摘いただくことが実証事業の主眼だと考えている。今日いただいた意見も府に伝えて、当協議会にフィードバックできる情報については、早いうちに情報提供できるよう調整したい。そうすることで、更に事業が改善されて次のステップに行くことを期待しているため、引き続き様々なご意見をいただきたい。
委 員	・今後、空きの台数について再募集する計画はあるのか。

事務局	・再募集についても府と交渉したが、タブレットは9月1日返却であり、貸出期間に時間的余裕がなく再設定できないとなった。今後、府は余ったタブレットについては職域を通じた貸し出しを検討しており、市町村を通じてではなく、生命保険会社等の参加企業の職域を通じて対象地域にアクセスして貸し出しをすると聞いた。
委員	・私達も参加して欲しいということで相当働き掛けを行った。検討してもらっても実際には申請しておらず、理由は既にスマートフォンを持っており、期間終了後に再度ダウンロードは二度手間ということであった。 ・また、スマートフォンやパソコンの利用は無理で、入り口のところで断る人もいた。
会長	・重要な意見である。未参加の方の意向を把握する必要がある、協議会で議論いただければと思う。色々と聞こえてきた意見を集約するだけでも意味があり、少し広く意向調査を行うのであれば、より有益だと思うため、検討をお願いしたい。
委員	・自分も参加しようと思ったが、2時間半の説明がネックだった。使い方が分かる世代が一から聞くのかと感じた。80代の人からも2時間半座って聞くというのが辛いと聞いた。
委員	・当協議会を進めながら、今になって気付いたことだが、この協議会もだが大阪狭山市全体は、どんなふうに向かっていくかという理想像・理念のようなものが、意外と私自身はつきりつかめてないと気が付いた。 ・市長の話の中にもあったが、近畿大学病院や府営住宅の跡地について、企業にニーズ調査を行うことを聞いたが、まずは大阪狭山市としての理想を考えて、それに対して各企業はどんな協力ができるのかという形でニーズを聞かなければならない。各企業は、目的は様々に持っているため、それぞれ異なった目的で参加する。それでは結局は1つにとまらない事態が起こりかねないと思っている。 ・私は狭山に引っ越してきたのは35年ぐらい前で、不動産屋の営業から聞いた印象的なことがある。大阪狭山は、堺とは少し異なり文教都市を考えているとのことであった。 ・しかし現在、そういったテーマや理念が薄らいでいるのではないかと疑問を持っている。ニーズ調査をする場合には、部長級職員等で構成する「ニュータウン地区活性化プロジェクトチーム」のPT会議といった場で、まずは理念的なものを議論していただいて、その理念を提示しなければ、企業に対する調査もまとまらないと思う。
会長	・ご意見感謝する。非常に大事なご意見を賜った。今回の狭山ニュータウン地

事務局	区再生推進計画は、基本的にはアクションプランの位置付けとなっている。その上に活性化指針があり、その指針を具体化するために本計画を作った。 ・このため、活性化指針の中に基本的な方向として、基本理念やめざすべき将来像といった前段階の議論を行っているとのことであるため、事務局から関連して何か述べていただきたい。 ・土地利用需要調査について、民間ベースでニーズを調査する上で、市の方針を先にしっかり持つべきという点はその通りだと思う。 ・本市では第5次総合計画が完成しており、今年度、都市計画マスタープラン改定も行っている。土地利用の基本的方針と理念は、都市計画マスタープランでかなり具体的な考え方を進めており、調査については、総合計画や都市計画マスタープランに書かれている理念から外れないように進めていきたい。加えて狭山ニュータウン地区活性化指針の理念「狭山ニュータウンらしさを次世代に引き継ぐ」を基本にして土地利用のニーズ調査をしていきたいと考えている。 ・具体的には、近畿大学病院の跡地は、PT 会議で考える土地利用を基本として、具体的に土地の処分を行う近畿大学の意見を伺いながら、最終的に土地利用についてどの企業にどのような調査を行うのかを相談しながら進めたい。 ・同様に府営住宅集約建て替えの結果生まれる空間地、この活用用地のニーズも現在の都市計画の土地利用規制や都市計画マスタープランで触れられている内容を踏まえ、また大阪府の意見もいただきニーズ調査を行いたい。
会 長	・他の委員のご意見はいかがか。
委 員	・この資料4「2. シンボルプロジェクトの実施予定内容（案）」を見ると、※印が付いている事業と付いていない事業が混在している。推進会議は（※推）の事業を行い、残りは行政で行うという分け方をしていると思う。 ・しかし、その場合でも全体のことは共有するということであるため、どのように一体で進めていくのかは、はっきりさせておく必要がある。こちらは関係ないでは済まないと思っている。
事務局	・縦割りに見える標記で申し訳ない。推進会議の事務局は本市で行い、市民活動の活動主体の市民の皆さまと一体となって進めたいと考えている。 ・推進会議の活動についても当協議会で報告することで、当協議会の皆さまのご協力をいただきたいと考えている。 ・昨年度のマルシェの際にも近畿大学に駐車場を貸し出していただくなど大きなご協力をいただいた。そういった中で、事業者の皆さま、市民の皆さま、本市と一体となって様々なことを共有しながら進めていきたいと考えている。
会 長	・よろしくお願いします。この4つの重点プロジェクトは当協議会での報告や協

	議を行うという認識である。他の意見はいかがか。
委 員	・府営住宅の更新について、府営住宅に居住する方に聞くと、話はあるが漠然として意味が分からないとのことであった。ある程度形になったものを持って来てこの形にしたいと伝えて欲しいとのことであった。 ・また最初、大阪狭山市は文教都市として大きな看板を飾っており、帝塚山学院大学や近畿大学医学部があり、病院がある。非常に環境が良く、そしてあまり大きくなく、こじんまりとした穏やかな良い土地であったため、私もニュータウンに来た。しかし、今やそれが薄れつつある。南河内でも大阪狭山市は文教都市で穏やかで上品な都市だと何回も言われた。しかし、今や近畿大学も帝塚山学院大学もなくなってしまったと言われてしまうと答えようがない。文教都市のイメージが消えてしまうと魅力がなくなってしまうため、それを生かした都市づくりをしてもらいたい。
会 長	・その課題を考えていかなければならないことが、この趣旨だと思うが、事務局はいかがか。
事務局	・府営狭山住宅の集約化事業は、令和3年12月に府の計画が示され、2月に当該住宅の方々に府が説明を行ったということである。今後、事業着手に向けて協議が整った後、府内の50数団地について順次進めていくということである。具体的にどこをどうするという協議はこれからであるということでご理解いただきたい。
会 長	・府営住宅に関して補足があればお願いしたい。
委 員	・府営住宅は、以前までは除却を行って活用地を作ること考えていた。しかし、方針を大きく変え、昭和50年代以前に建設された団地については、用途廃止だけでなく、建替えも行う方針に変えた。狭山住宅も従前は用途廃止、いわゆる除却をして用地を生み出す手法であったが、建替えに変更することを決めた。ただ、建て替えなり用途廃止する昭和50年代以前に建設された団地は50団地と多く、各市にもお願いして住民への説明を、やっと実施したのが今の状況である。 ・今後、どのように建て替えをするのか、どこに活用地が出てくるのかについては、建て替えの基本計画を立てないと出てこない。しかし、先ほど述べたように50団地あり、予算の限りもあり一度にはできないため、どういう順番で実施するかも含めて検討する。当然、私の立場として、府営狭山住宅については当協議会でしっかり検討しており、優先順位を高くして早く検討いただくよう住宅経営室という府営住宅所管部署に申し上げている。 ・最終的に住宅経営室が、順番や基本計画を作るため、それができた段階で各住民に、具体的な建て替えと活用地の説明を行う。どう活用するのかは知事

	や協議会の意見を踏まえながら検討することになる。このような段取りとなるため、よろしくお願いしたい。
会 長	・事業者の方々に意見があれば頂きたい。
委 員	・南海バスである。にぎわいがまちの中で出てくると、人の動きも付随して出てくる。マルシェのようなイベント時にバスをご利用いただきたいという思いもある。バス事業者としても連携して何ができるのかを積極的に考えていく必要があると思っている。免許返納の動きもあるため、そういった中でもバスに触れていただく良い機会になればと考えている。引き続きよろしくお願いしたい。
委 員	・南海電気鉄道である。我々の取組みもニュータウン地区再生推進計画の中でいくつか取り上げていただき感謝する。推進の際には協力申し上げたく、今年度であれば、コロナで未実施となったが大阪狭山市が1月に企画していたシンポジウムで「リノベーションまちづくり」紹介をしようと思っていた。この計画の「空きスペース等を活用したにぎわい空間づくり」のような箇所で、どういう活動ができるか、また紹介させていただきたく、よろしくお願いしたい。
会 長	・残念ながら計画策定前にシンポジウムを実施できなかったため、本計画の公表を兼ねて実施いただければと思う。
委 員	・大阪第一交通である。地域交通がどれだけ地域住民に馴染んでもらえるかが課題だと認識している。広報や周知がどの分野においても一番難しいと思う。良いものがあっても住民の末端まで全く行き届かなかったり知らなかったりとなってしまう。実際に知って体験してみたうえで、駄目ならば良いのだが、そこまでなかなか進まない。私たちの業界はPR、広報が苦手で他業界をうらやましいと思うことがある。そこを考えると、細かい部分でタクシーを活用してもらいたい。乗るのではなく、例えば各市町村にPRに使ってもらっても良い。今度、堺市でもラッピングするが、そのような形で行政等のPRに使ってもらいたい。 ・スマートシニアライフ実証事業だが、弊社も参画を検討している。1分野1社で複数社が入れない等の縛りがあるようで、共同で行うなどできないか検討していきたい。
会 長	・令和3年度最後の協議会のため、各委員から一言ずつ意見をいただければと思う。
委 員	・私も約30年前の学生時に、旧狭山町を初めて訪れた。先ほどから各委員が述

	べるように、すごいまち、まぶしいまちだと思った記憶がある。近畿大学病院や帝塚山学院大学や色々と魅力ある建物があり、まちに活気があり、すごく賑わいがあったと記憶している。 ・原状回復のためにはV字回復が必要だと思うし、そのためには市長が冒頭で述べたように、市民と連携をしながら取り組んでいくことが大切だと思う。大阪狭山市内で、総合的な取組みとして何か市を挙げたものが必要だと思う。 ・会長から具体的な取組みが必要だと言われており、パブリックコメントの中でも近畿大学病院の移転については、沢山挙がっているため、理想的には、近畿大学と大阪狭山市が連携をしながら協働によって、今後を計画できればと思っている。
会 長	・パブリックコメントでも近畿大学に対する期待は非常に大きいため、よろしくをお願いしたい。
委 員	・確認したいが、資料4「狭山ニュータウン地区再生に向けた令和4年度の主な取組方針（案）」という中で、「2. のシンボルプロジェクトの実施予定内容（案）」がある。土地利用需要調査の実施と空き店舗の実態調査はニュータウン地区だけなのか大阪狭山市全体なのか。 ・また、西山台第1公園ほかの老朽遊具等更新について、腐食や老朽化した遊具への対応は、従来から市内公園を対象にその都度行っているのではないか。
事務局	・土地利用需要調査はニュータウン地区を対象に行うものである。 ・空き店舗実態調査は、市が実施する予定である。対象を市内全域とするか狭山ニュータウンだけとするかは検討中である。
委 員	・それならば大阪狭山市商工会会員に聞かれたら未決定だと回答する。
事務局	・空き店舗実態調査は、市民生活部が主管となり実施するが、ニュータウンだけでなく市内全体を対象にしたいと考えている。予算措置していないため、職員がどのような形で実施するか、空き店舗の定義なども検討中である。
委 員	・資料2の計画本編8ページで、再生推進計画の構成として9つの重点取組があり、この9つが実現すれば非常にまたニュータウンの魅力がアップするという期待を持ち、楽しみにしている。この下に記載がある「今後の進め方」については、毎年度PDCAにより進捗管理を実施するとのことだが、ここが今後非常に大事であると思う。どのように進捗管理を行うかを教えて欲しい。
事務局	・資料4で示す「3. 来年度の連絡協議会の開催（案）」に沿って、第1回、第2回で、皆さまに取組み状況等を説明しながら、ご意見をいただきつつ進捗管理していきたいと考えている。よろしくお願いします。

会 長	・資料2の計画本編38ページに具体的に基本的な進め方が書いている。会議で提示するデータ等は会議中に委員の意見を踏まえながら精査していくことになると思う。ご協力よろしくお願いします。 ・本日は古川市長に参加いただき誠に感謝申し上げます。皆さまから様々なご意見をいただいたが、あらためて古川市長のお考え等をお聞かせ願いたい。
市 長	5 本日のまとめ ・皆さま本当に長時間、熱心にご議論いただき感謝申し上げます。 ・この再生推進計画については、思い返すと平成30年に「狭山ニュータウン地区活性化指針」を市民の皆さまと一緒に作り上げ、この指針が一番の基となっている。そこから既に3年、4年という一定期間が経過しているが、当時の市民の正直な本音の部分、これから狭山ニュータウン再生に向けてどうしていくかというところからスタートし、本当に皆さまにお世話になりながら、今日の日を迎えている。 ・この推進計画を策定することが目的ではなく、本当にこれから市民の皆さまに具体的に実感していただけるようなニュータウンの活性化、再生をどうやっていくかについて、皆さまの本日の意見のように、非常に貴重な意見を聞かせていただいた。 ・ただ、本日の意見にもあるように、狭山ニュータウンは、今後このように活性化していく、再生していくのだという理念や考え方、方針というのを、多くの市民の皆さまに理解していただくことが大前提にあると感じた。しっかり市民の皆さまと向き合いながら、今後、ご意見を伺いながら市民への説明、周知をしっかりとしていきたい。 ・併せて、この取組み1つ1つには、当然どれを見ても市民参画、市民参加がベースにある。1人でも多くの方が参画していただけるような、そういうまちづくりを進めていきたいと思う。 ・そのためにも当協議会のメンバーである皆さま方のご理解と、所属されてる各団体の皆さまのご理解、ご協力をお願いし、今日の感想とさせていただきます。
会 長	・非常に力強い言葉をいただき感謝申し上げます。最初のあいさつから一貫するのは、要するに人づくりということがあったと思う。 ・私自身の考えを述べさせていただく。まちづくりは、色々な方々も述べているが、健康なまちづくりが一番大事であると思う。健康なまちづくりとは何かというと、健康な人が沢山いるまちで、そういうところは非常に健康なまちだという。健康な人とは何かというと、地域の色々な課題に対して問題意識を持って、かつ行動する人だという。だから、まさに人づくりである。地域の色々な課題や魅力に目を向けながら、地域で色々な行動を起こす健康な人が沢山いるという状態を、もう一度ニュータウンの地区再生推進計画で見つ

	め直していくということだと思う。 ・委員が述べたように、昔はどうだったという話については、私も大学に入った頃から大阪狭山に3カ月ほど住んでおり、その時から色々な関わりが継続している。しかし、40年、50年経過すると、やはり再生することを考えざるを得ないということで、まさに、これから皆さまと一緒に引き続き取り組ませていただければありがたい。 ・開催予定だったシンポジウムも残念ながら延期となったため、ぜひ新たな形で開催していただきたい。 ・また、次年度からまた2名の委員が追加となるため、府営住宅との絡みを強くすることや、市民との連携を更に強くする意味合いで当協議会も強化されるため、引き続き皆さまと共に取り組んでいきたいと思う。皆さまのおかげで再生推進計画ができたことを改めて感謝申し上げます。 ・次回は9月に中間報告が予定されており、これからの在り方について議論ができればと考えている。今後ともよろしくお願ひしたい。そして、それぞれの取組みに対して相互にご支援、ご協力をいただくことになるため、それも重ねてよろしくお願ひしたい。 ・これで5回目の協議会を終了したい。進行を事務局にお返しする。
事務局	6 事務局からの連絡 ・会長及び各委員の皆さま、誠に感謝申し上げます。事務局から2点報告する。 ・1点目は、新年度の人事異動等により連絡先変更等があれば事務局までご一報いただきたい。 ・2点目は、本日の参考2「狭山ニュータウン魅力発見フェスタができるまで」資料をご覧ください。 ・昨年10月に委員の協力を得ながら開催したウォークラリーとマルシェは来年度も継続開催できるよう検討したい。引き続き、当協議会と両輪となる「狭山ニュータウンの未来を育むプロジェクト推進会議」の取組みにもご支援を賜るよう、お願ひを申し上げます。
副市長	7 閉会 ・長時間にわたり議論賜り誠に感謝申し上げます。会長より会議中に、今回の計画策定が、始まりだという趣旨の発言をいただいた。私も全くその通りだと思う。議論でもあったように、更には狭山ニュータウンだけではなく、本市全体を、再びというと少し語弊があるが、魅力あるまちとして全体に広げていくことを、行政マンとしてしっかりと胸に刻みながら、皆さま方のご指導、ご鞭撻を賜りながら進めてまいりたい。 ・これまで会議に携わってきた職員も含め、引き続き皆さまからご指導いただけるよう、どうかよろしくお願ひする。誠に感謝申し上げます。（終了）